

当社グループ使命 「酪農生産への貢献」の 実現に向けての取組み

雪印メグミルク株式会社 酪農総合研究所
所長 池 浦 靖 夫

はじめに

まず最初に、この度の度重なる台風の襲来に際し、被害を受けられた方々に対しまして、謹んでお見舞い申し上げますとともに、被害に遭われた地域の一刻も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

さて、雪印メグミルクグループの中核をなす雪印メグミルク株式会社は、平成二十一年一〇月に日本ミルクコミュニティ(株)と雪印乳業(株)が経営統合した持株会社として設立され、翌年四月に雪印メグミルク(株)が両社を吸収合併し事業会社としてスタートしました。

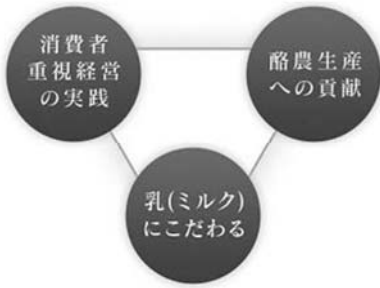
前身のそれぞれの会社は、酪農・農業に携わる生産者の団体を母体として生まれた歴史があります。日本ミルクコミュニティ(株)は、全国農協直販(株)、ジャパンミルク

ネット(株)と雪印乳業(株)の市乳事業が統合して設立されました。そして、もう一つの前身企業である雪印乳業(株)は、大正一四年、北海道の酪農民が出資して「有限責任 北海道製酪販売組合」を創立したことに始まります。

雪印メグミルクグループのルーツは日本の酪農そのものであり、九〇余年にわたり常に日本の酪農とともに歩んできました。この長い歴史の中で、ミルクに向き合い、その可能性と価値を「深め」、「高め」、「広げていく」ことを実践し、商品を通して日本の消費者のくらしと酪農生産者をつないでいきます。

「酪農生産への貢献」 の取組み

雪印メグミルクグループの企業理念は、「コーポレートスローガンである「未来は、ミルクの中にある」と、「酪農生産への



私たち雪印メグミルクグループは、3つの使命を果たし、
ミルクの新しい価値を創造することにより、
社会に貢献する企業であり続けます。

貢献」「消費者重視経営の実践」「乳(ミルク)にこだわる」の三つの使命で構成されています。

当社グループ使命の一つである「酪農生産への貢献」には、日本酪農を基盤として成り立っている雪印メグミルクグループが酪農生産者の良きパートナーとして信頼関係を深め、消費者へ乳の価値を伝え、牛乳・乳製品の需要拡大を実現することで、国内酪農生産に貢献してい

きたいという思いが込められています。

ここでは私たち雪印メグミルクグループの「酪農生産への貢献」に関する取組みについて、その一部をご紹介します。

一．酪農諮問委員会の開催

当社グループの酪農に関わる取組みに関して幅広い助言を受ける場として、雪印メグミルク発足時の平成二二年四月に酪農諮問委員会を設置しました。

委員会には酪農生産を代表する方々と、大学・研究機関の学識経験者の方々に委員として参画していただいております。毎年春、秋の二回委員会を開催しています。

平成二八年度は、「農政の転換期を迎えた酪農乳業の課題と今後の対応について」を年度テーマとして、春開催の委員会では関連対策などの施策の方向性に対する評価について各委員からそれぞれ率直な意見を伺い、乳業の対応についても



酪農諮問委員会

貴重な助言をいただいております。

二．日本酪農青年研究連盟の活動支援

雪印メグミルクグループは日本酪農青年研究連盟(酪青研)活動の支援に取り組んでいます。

酪青研は、わが国で最も歴史のある酪農生産者の実践的研究組織です。昭和二



日本酪農研究会

三年の戦後混乱期に、北海道酪農の復興に燃える酪農青年が酪農の理想郷を目指して研究会を発足させ、その後、組織の輪を広げ、昭和三八年に全国組織となりました。

発足当初から当社グループが事務局を担い、北は北海道から南は沖縄まで約千八百名の酪農生産者によって組織され、地域ごとに活動を行っています。

毎年全国から会員が参集する日本酪農

研究会は、平成二七年で第六七回を数えました。研究会では全国から選抜された酪農家六名による酪農経営発表と、五名から酪農に対する想いが発表されました。酪農研では、その他海外酪農研修、中堅会員研修、全国レディースの集いなどを開催し、酪農生産者の全国のネットワークを推進しています。

三、酪農総合研究所による 調査研究活動

酪農総合研究所（酪総研）は、「酪農生産に関わる幅広い分野の科学的・実践的調査研究とその成果の普及を通して、わが国酪農の発展と食糧の安定的需給に寄与する」ことを基本方針としています。酪農生産に直接関係する国産飼料の生産強化とその有効利用に関する調査研究の取組みの一端をご紹介します。



草地植生・収量調査（実証圃場）

◆「実証圃場」の取組み

草地の肥培管理や草地更新、最適な草種選択による植生改善、飼料生産原価の低減、適切なサイレージ調製等を目的に雪印メグミルクグループと地域の関連団体で推進体制を構築し、土地資源を有効活用した自給飼料の生産拡大を支援しています。

定期的に現地の巡回調査を行ない、植生調査の結果から草地更新、最適種の選

択、雑草抑制、収量調査、飼料分析・設計などを実施しています。

平成二〇年から取組みを開始し、作溝型更新機械を活用した簡易更新・追播方法、土壌凍結地帯では不向きとされていたアルファルファやペレニアルライグラスの普及定着等の成果を上げています。

◆「経営『実証農家』調査研究」の取組み

酪農において、自給飼料はその質と量によって経営に大きな影響を与える部門です。しかし、自給飼料部門への投資効果は、天候を始めとする様々な要因によって見えづらくなることから、自給飼料改善が進まないという側面があります。

「経営実証農家」の取組みは、「実証圃場」を一步進め、自給飼料の質・量の改善を基本として、飼養管理方法の改善、施設改善、経営診断等一貫したプロセス管理を行って経営の改善を進めていき、



定期巡回（経営実証農家）



草地越冬状況調査（経営実証農家）



現地検討会（経営実証農家）

最終的に自給飼料改善の直接的経済効果を実証することを目的にしています。

この取組みは、雪印メグミルクグループと大学、コンサルタント会社、地元の農協等の関係団体・機関がチームを作って進めています。

毎月、経営実証農家での各種調査、検討およびアドバイスをを行う定期巡回をベースに、それぞれ年二回関係者が集まって分析・検討を行う現地検討会および定期検討会、牧草の生育状況に合わせた圃場調査等を行い、牛のボディコンディションスコアの確認、土壌分析、植生調査、収量調査、草地更新、貯蔵飼料

在庫調査、採食量調査、育成牛の体格測定、乳検データの評価、および経宮診断等を実施しています。

この取組みは平成二二年から開始し、取組み期間を五年間として四農場で実施（現在二農場で継続中）し、飼料費低減および乳量増加等による大幅な収支改善を実現し、これらのデータを地元機関と共有化することにより、地域全体への波及効果を生んでいます。

四・酪総研シンポジウム

酪農総合研究所（酪総研）では毎年シンポジウムを開催し、時節にあったテーマを設定して酪農技術、牛乳および乳製品の消費、酪農制度・政策、酪農乳業情勢など幅広い分野で、講演と意見交換を行っている。

平成二八年は酪総研創立四十周年記念シンポジウムとして「日本酪農の可能性

一人・牛・飼料」をテーマに、国内酪農生産基盤の維持発展に貢献できる搾乳ロボット等の新技術、牛群能力を最大限に発揮するための乳検情報の活用、そして地域が一体となった草地型酪農の取組みについて三名の講師の先生方にご講演いただきました。

全国各地より酪農生産者、関係機関指導者、研究者など約三三〇名の方々に出席いただき、今後の我が国酪農の可能性に関して活発な意見交換が行われました。

五・TACSしべちの

技術支援

農業生産法人（株）TACSしべちは、標茶町農協・雪印種苗（株）・標茶町の三者が共同出資して平成二五年十一月二五日に北海道釧路総合振興局管内標茶町に設立し、平成二七年四月三日から搾乳を開始しました。



酪総研シンポジウム

ここでの取り組みは、北海道の広大な草地を活かし、自給飼料を中心とした草地型酪農の模範となる農業生産法人として、低コスト型経営を運営するとともに、その実践内容を地域に普及させることです。

また、近年、酪農による生産乳量の減少や、遊休農地の増加が浮き彫りとなり、担い手の確保が喫緊の課題となっておりますが、当牧場では担い手育成協議会

(標茶町、JAしべちや、普及センター、共済)との連携により、新規就農希望者の受け入れ農家のひとつとして積極的に受け入れ、研修の場としての役割も備えています。来年度からは放牧主体の付属牧場の設置を進めており、牧場運営(営農計画、収支計画等)は研修生に任せ、自分達で作ったプランを遂行するなど、より実践的な研修内容を設定したなかで、即戦力となる後継者育成に力を入れていきます。

TACSしべちやが掲げる草地型酪農の普及面では、追播や更新を実施し、その過程を町内外の生産者および関係者を対象とした草地更新技術の比較検討会として開催し、表層攪拌法のほか、完全更新と簡易更新などの草地更新技術の検討や、既存草地に追播区を設けて数種類の更新方法の紹介を行うなど、TACSしべちやの職員や研修生が自ら率先して技術普及にあたっています。これらの取り

組みに関する技術的サポートは、技術部会(釧路農協連、普及センター、共済、JAしべちや、雪印種苗)を通して行われており、草地管理技術や乳牛飼養管理技術を最大限に生かし、TACSしべちやの生産性向上を目指しています。今後も雪印メグミルクグループのノウハウと技術を活用し、様々な取組みを通じて着実に成果を上げ、TACSしべちやを含めた地域酪農生産に貢献していきます。



草地植生改善の技術普及
(TACSしべちや)

おわりに

昨年度は全国の生乳生産が前年を上回りましたが、酪農家戸数の減少には歯止めがかからず、酪農生産基盤の弱体化が一層危惧される状況が続いています。

私たち雪印メグミルクグループは、酪農への貢献を企業理念に掲げています。酪農と乳業は車の両輪です。これからもミルクにこだわるものづくりで乳の付加価値を高めていくことを基本に、酪農諮問委員会の開催や、酪農研活動への支援、酪農総合研究所による調査研究活動の普及・経営支援、そして株TACSしべちやの運営支援などの地道な活動を展開して、酪農生産の活性化に引き続き貢献してまいります。

今後とも関係各位のご助言、ご指導の程、宜しく申し上げます。